

井上 大地（イノウエ ダイチ）

(INOUE Daichi)



生 年 1981 年 出 身 地 滋賀県

現 職 大阪大学大学院医学系研究科・生命機能研究科 教授
(2024 年 12 月 1 日現在) (Professor, Graduate School of Medicine and Frontier Biosciences, Osaka University)

専 門 分 野 腫瘍生物学、血液内科学

略 歴 2005 年 京都大学医学部医学科卒業
2007 年 神戸市立医療センター中央市民病院初期研修医修了
2010 年 神戸市立医療センター中央市民病院免疫血液内科後期研修医修了
2012 年 日本学術振興会特別研究員－DC
2014 年 東京大学大学院医学系研究科博士課程修了
2014 年 博士(医学)の学位取得(東京大学)
2014 年 東京大学大学医科学研究所細胞療法分野特任助教
2015 年 日本学術振興会海外特別研究員
2019 年 神戸医療産業都市推進機構先端医療研究センター血液・腫瘍研究部上席研究員(グループリーダー)
2020 年 京都大学大学院医学研究科内科学講座血液・腫瘍内科学客員准教授
2021 年 神戸医療産業都市推進機構先端医療研究センター血液・腫瘍研究部長
2024 年 大阪大学大学院医学系研究科・生命機能研究科がん病理学教授(現在に至る)

授 賞 理 由

「転写後制御異常による新規発がん機構の解明」

(Elucidation of the Mechanisms Underlying Cancer Development via Aberrant Post-transcriptional Regulation)

井上大地氏は、染色体異常やタンパク質コード領域の変異の枠を超えた発がん機構について精力的に研究を進め、がん細胞ではがん特異的な RNA スプライシング異常が生じ、転写後制御の障害が直接的にがん化に寄与するという機構を、世界に先駆けて報告した。特に、独自に開発したアルゴリズムにより、イントロン変異が mRNA 分解を誘発し標的遺伝子の機能低下を来す現象を、ゲノムワイドに捉えたことは、大きな発見である。一連の研究成果は、がんでしばしば観察されるマイナーイントロンスプライシング異常の研究へと発展し、その発生機構と病理的意義を解明した。

井上氏があげてきた研究業績は卓越しており、患者検体、様々な病態モデル動物、数理モデリングなどを組み合わせて研究を進める学際性は特筆に値する。がん生物学、機能ゲノミクスについての基礎医学のみならず、これを応用する臨床医学にも深い見識を兼ね備えた類まれなリーダーとして、今後更なる発展が期待される。